



人口43万人県内4位の藤沢市は南北に広がり、南の海辺には富士山を眺め風光明媚な江の島や、北に目を向けるとトマトや葡萄（藤みのり）が有名な産地となります。藤沢市居宅介護支援事業所連絡協議会は平成12年4月の介護保険開始と共に設立いたしました。現在は居宅介護支援事業所、小規模多機能型及び看護小規模多機能型、介護老人福祉施設、介護老人保健施設、認知症対応型共同生活介護の約130事業所400名の介護支援専門員が入会している組織になります。幹事役員は11名で市を南北に分け担当を構成。活動としては定期の幹事会を開催し、介護支援専門員の資質向上を図る目的として、主に研修会を企画。多職種の協会との合同研修や、市内の入院病床を有する病院との医療連携研修、また、新任者向けに包括支援センターや保険者関係各課との連携研修など多岐に渡ります。今後も連絡協議会としては、共生社会実現に向け介護支援専門員一人一人が地域を支える中心となる存在を目指し、活動を続けたいと考えております。

藤沢市居宅介護支援事業所連絡協議会 会長 三上直樹

ケアマネ通信

目次

❗「サービス担当者会議をオンラインで体験してみよう」	
研修会報告	2
❗コロナ禍の地域包括支援センターにおける活動	3
❗コロナその時	4
❗会報誌に関する会員アンケート報告	5
❗ケアマネリレーコラム	7
❗歴史こぼれ話～十一～	7
❗編集後記	8
❗インフォメーション	8

「サービス担当者会議をオンラインで体験してみよう」 研修会報告

ケアマネジメント基礎研修部会 諏訪部 弘之

昨年11月28日にオンラインサービス担当者会議の研修を行いました。定員が早々に埋まってしまったため、同内容の研修を2月13日にも開催しています。

この研修は、講義部分と演習部分の2部構成としました。

講義では、パソコンの操作説明から行い、サービス担当者会議の基本的な理解（運営基準、会議の目的や意義、会議の進め方）や、オンライン会議における注意点などを説明しています。「一方的に聴講するオンライン研修は受けたことがあっても、相互にやり取りするタイプの研修は初めて・・・」という方もたくさんご参加いただきました。この原稿が発刊されるころには、おそらくICT（情報通信技術）を活用したサービス担当者会議は制度的にも認められていることだと思いますが、11月の研修時点ではまだ提案段階でした。まだまだ介護業界では一般的とは言えないオンラインでサービス担当者会議を体験してみようというのですから、ご参加いただいた方の意欲は非常に高いものでした。ただ演習を行う前に、アンケート（Zoomには投票機能という画面上でアンケートを取る機能があります）を行いました。「正直オンライン会議を行う自信がない・・・」というご意見も多くございました。

演習では仮想事例を使い、本人・家族・ケアマネジャー・事業所役を割り振り、ファシリテーター進行のもとにサービス担当者会議を行っています。オンライン上で体験していただいた演習の感想としては、「思っていたものよりも対面と近い印象だった」「回線確保等の工夫は必要だが、やれないものではない」というものでした。研修終了後のアンケートでは、「何とかなるような気がしてきた！」という回答が多くみられたことが印象的でした。

オンライン上での会議は、新型コロナウイルスの影響により大きく普及してきましたが、感染症対策の話が出る前から、国はICTの活用を進めていました。普及のスピード感は違うと思いますが、たとえ感染問題が出なかったとしても、いずれは介護業界でも活用が検討されていたことです。

③ サービス担当者会議についての 基本的理解

サービス担当者会議の具体的な進め方①

- 開会の挨拶と参加者の紹介
- 今回の会議の目的
- 利用者・家族の意向と総合的な援助の方針の確認
- 課題分析、生活上の課題の説明と確認
- 各専門職からの専門的見地と意見交換

今すぐではなくても、今後少しずつオンラインでのサービス担当者会議は増えていくと思われます。この研修は、次年度も実践に即した形に変えながら、研修を企画しております。誰もが初めての体験となりますので、本番前の雰囲気をつかむ場として、この研修をご活用いただけるとよろしいのかと思います。

コロナ禍の地域包括支援センターにおける活動

鶴巻地域高齢者支援センター（地域包括支援センター） 主任介護支援専門員 佐藤雅美

「いままで推進してきたことの逆の対応をとらなくてはいけない事態の今、できるやり方はなんだろう？ どういうチャレンジをしたらいいのだろう？」。地域包括支援センターの一員としてこの問いに常々向き合い続けながら、昨年からのコロナ禍の一年を過ごしてきたように思います。

地域包括支援センターの職務では、地域を知り、地域と共に歩み、地域の困りごとをキャッチし、対応策を検討し、という過程を大切に、その中で暮らす個々の人々の課題に向き合い、その当事者に関わる人達と協働しながら個と地域との相互作用でよりよい暮らしを見いだせる道を見つける活動を展開していくのが常でした。

しかしコロナ禍で、今までそのために普通に行っていた「集まり検討する」という行動も取りづらくなり、支援センターとしての個々の見守り訪問支援のみならず、地域の協働者である民生委員の皆さんや地域活動に従事する方達も対面支援を中断せざるを得なくなり、「さりげなく気にかける」がしづらい情勢となってしまいました。

いままでの活動の仕方ではできていたこういった「ちょっとしたつぶやきから聞こえてくる地域課題」「ちょっと気にかけていたことで気づいた地域高齢者の暮らしぶりの変化」に気づく機会が最近は減少してしまっていると言えます。

このように重症深刻化してから発見するのではなく「少しのほころび」時点でキャッチし、深刻化を予防することを行ってきたものが、この1年は例年以上に発見したときには深刻化していて、介入当初から居宅ケアマネジャーの皆さんや医療機関・施設のお力をすぐに注いで頂く事態になっているケースが多発しているように感じます。

フレイル対策も兼ねて、地域内につどいの場としてサロン開設・展開していく活動も、緊急事態宣言により実施中止する事態が多発しました。「人と会えないことがこんなにも自分に影響があるなんて思わなかった」と再開したときに参加者からうかがったコメントがとても印象的でした。いままで普通につどい、語り、身体をお互いで動かしてきたことが、どれほど皆さん達にとって大事だったかと、推進してきたことは間違っていないと感じる一方で、「集まらない」代替りの代替手段はなんだろう、とチラシを配ったり自宅でできることを模索提案したりしてきました。

オンライン会議などICT活用も進み、新たな「検討する」手段も得られた一方で、リアルで会えないことでの情報伝達の不具合も生じています。ここに来て当市でもコロナ感染者が高齢者施設の利用者や職員に生じてきて、情報伝達の即応性・確実性の必須さを身にしみて感じるようになりました。

今後も各機関と連携しながら地域に暮らす高齢者の不安や状態悪化を食い止める活動を、止めずに継続していく為の創意工夫をこらしながら推進していく必要性をさらに強く感じています。

コロナその時

広報・出版委員会 内田 竹伸

ワクチン接種が始まりはしましたが、新型コロナが私たちの日常生活に大きな影響を及ぼすようになってから1年以上が経ち、介護施設や事業所でのクラスター発生のニュースも非日常ではなくなってきました。今回は、実際にその対応に関わった会員の方より、匿名を条件にその時の状況や、その経験から私たちに求められる備えについて、寄稿して頂きました。

私が勤務する法人は、県内外に、複数の事業を展開しています。昨年の秋から、今年の1月までに複数の拠点(住宅型有料)で新型コロナのクラスターが発生しました。今回の内容が、私の個人的主観も含んでしまっているかもしれませんが、いつどこで発生してもおかしくない状況の中で、私の経験で感じたことや気付いたことをお伝えすることが少しでも皆様のお役に立てばと思い、この原稿を書かせて頂いていますが、状況や環境により対応は異なると思われます。また、自治体や保健所ごとで指示や見解等が異なることもあります点はご了承下さい。

皆さんは、ご自身の職場で陽性者が出たらどうなか具体的にイメージしたことはありますか?「職員のプライベートはどうなる?」「職員の多くが陽性・濃厚接触になったらどうする?」「実際にどう動けばいいの?」私の法人でも、事前にマニュアルが作成され、事前に各拠点責任者に対してその伝達がされてはいましたが実際は、「ガウンやグローブの着脱が正しく出来ていない」「清潔ゾーンに不潔なガウンを着けたまま職員がうっかり出てきてしまった」「居室対応中の濃厚接触疑いの認知症入居者が居室から出てきてしまう」「名簿の更新が適切にされておらず、家族への連絡が漏れた(相手先が違った)」「家族から職員がきちんと対応していないからだ、誰が上げたんだ!などと責められた」「保健所、介護保険担当課、自治体のその他の部署間で異なる指示・指導があり、どうすればいいのか分からなくなった」などなど、多くの混乱が起きました。そして、その混乱は、自分たちではコントロール出来ないことも少なくありませんでした。

今回私の立場は施設側でしたが、ケアマネと連絡・連携をとるのも混乱の中で十分かつ適切でなかったかもしれません。なので、もし、ケアマネとして自分の担当しているケースの利用している施設や事業所でコロナ感染が発生した場合に、どのような情報や対応が必要なのか、逆の立場で考えてみました。

【陽性者が利用者だった場合】

- ・陽性者と担当利用者の利用日は同一なのか? 訪問系の場合、担当者は同一なのか?
- ・陽性者と職員たちとの関わりは? そして担当利用者と職員の関わりは?

【陽性者が職員だった場合】

- ・陽性者と担当利用者とはどんな関わりがあったのか?

【当該利用者への対応に必要なこと】

- ・保健所が濃厚接触者を確定させるのに日時がかかる場合があり、その間の対応をどうするか?
- ・当面の期間の健康確認(誰がするか? どう確認するか?)
- ・陽性発生事業所以外の利用サービス事業所への連絡・サービス継続調整。
- ・利用中のサービスが継続できない場合の代替ケアの確保(入ってくれる事業所があるのか?)
- ・濃厚接触に該当しなかった場合や、検査で陰性の結果が出た場合でも何かしらの症状がある時はどうするか?

【当該利用者が濃厚接触と認定され自宅隔離の指示があった場合】

- ・通所系サービスの休止と代替ケアの確保(入ってくれる事業所があるのか?)
- ・訪問系サービスの継続調整(継続して対応してくれるのか?)
- ・家族との関わりは? 家族が担っているケアを継続できるのか? 出来ない場合はどうするのか?
- ・ゴミ捨ては通常通りでいいの?
- ・急変時の対応は?(主治医? 救急車? 保健所?)

考え出すと、色々ありますが、ケアマネだけで対応することは困難です。予めご家族や地域との確認・連携が重要だと思いました。

神奈川県介護支援専門員協会広報誌等に関する会員アンケート報告

広報・出版委員会 委員長 石橋 正道

本会の広報紙等につきまして令和2年12月10日から令和2年1月9日までアンケート調査を行いましたところ、41名の会員の皆様にご協力をいただきました。

1. 「ケアマネ通信」について、お手元に届いたら

「隅々まで読む」、「興味のあるところだけ読む」とほぼ半々の回答でした。今回ご回答いただきました皆様は、ほぼお読みいただいているようです。

2. 質問1で読まないと答えた方、読まない理由をお教えてください。

(主な意見)

- ・施設ケアなので、居宅に関するものはあまり読まない。
- ・忙しく時間がない。

3. 過去の「ケアマネ通信」で印象に残っている記事がございましたか。

(主な意見)

- ・自分が所属する市の協会が表紙だったとき
- ・歴史こぼれ話、ケアマネリレー
- ・介護保険に関する最新情報
- ・法改正の解釈

表紙の各ケアマネ連絡会の紹介はよく読まれているようです。また制度改正や最新情報などの関心が高いようです。

4. 今後「ケアマネ通信」で取り上げてもらいたい記事はございましたか。

(主な意見)

- ・災害時におけるケアマネの役割
- ・来年度の改正 解説
- ・介護保険改訂に関したものの、コロナ関連
- ・ケアマネのICTについて

様々なご意見がありましたが、災害の取り組み、制度改正、ICT関連などが目につきました。

5. ホームページについて伺います。

「よく見る」17%、「ときどき見る」53%、「見たことがない」19%と時々見るという方が多かったものの、見ていない方も多く、見ていただける工夫が必要だと痛感しています。

6. 当協会のホームページをよく見る、ときどき見るとお答えになった方、主にどのページを閲覧しますか。

研修情報が58%と最も多く、他のサイトはほぼ1名程度が見ているとの回答でした。他にも関心を持ってもらえる情報の発信を心がけていきたいと思えます。

7. 本協会ホームページを見たことがないとお答えになった方、理由をお教えてください。

(主な意見)

- ・ケアマネ通信を読んで満足してしまっていたから
- ・会報を読んでいるので
- ・メール配信は見ています。

紙媒体での情報があるため見ないという意見が数件ありました。タイムリーな情報を掲載するのがホームページの特徴です。もっと新しい話題の提供が必要だと感じます。

8. 当協会のホームページに掲載してもらいたい内容がございましたか。

(主な意見)

- ・クレームや、現場での疑問に対する相談ができるページ
- ・コロナウィルス等の対応
- ・研修のアンケートの一部。それを見て興味を持つかもしれない。

貴重なご意見がたくさんありました。今後のホームページ運用に役立たせていただきます。

9. ご自身のSNSの利用について伺います。SNSは、何を使われていますか。

(複数選択可)

・Facebook20%・LINE59%・Twitter10%・Instagram5%・何も使っていない30%
LINEの使用が一番多く、次いで多かったのが「何も使っていない」でした。年齢層にもよりますが、SNSの情報発信は大きな課題です。

10. 当協会のFacebookはご存じですか

・「いいね」している2%・知っている39%・知らない59%

「いいね」をしている方は2%、知らない方が59%はと情報が行き届いていないことを反省しました。タイムリーな情報を発信していますので、ぜひ「いいね」をお願いします。

11. 神奈川県介護支援専門員協会としては、コロナ禍の中、三密を避ける目的でオンライン研修を検討しています。検討するにあたり、皆様のインターネット通信環境をお教えてください。

- ・自宅、職場でWi-Fi環境が整っている18%・自宅でWi-Fi環境は、整っている60%・職場でWi-Fi環境が整っている16%・端末の通信環境を利用している3%
- ・ネット環境がない3%

自宅のWi-Fi環境は整っている方が多く、以外にも職場の環境はあまり整っていないようです。今後リモート研修などが増えていくと思われるため、職場のネット環境整備は大きな課題だといえます。

12. ご自身の端末機器についてお伺いします。(複数選択可)

スマートフォン保有率が約50%でした。デジタル化するケアマネ業界においては、まずスマートフォンを使うということが必要になるかもしれません。またカメラ付きパソコンの保有率は54%とスマートフォンより多い結果となりました。通信環境に課題はありますが、ハード面は比較的整備されている方が多いようです。

皆様ご協力ありがとうございました。(コメント・広報出版委員会石橋)



ケアマネリレーコラム

～神奈川県で働くケアマネジャーが日々思ったことなどを綴っていきます～



トゥ・スマイルケアセンター湯河原事業所 本多 美弥子

南足柄市の二見さんからバトンを受け取りました。湯河原町のトゥ・スマイルケアセンター湯河原事業所の本多 美弥子です。神奈川県が一番西にある湯河原町は時々静岡県と間違われることがあります…。研修に出ても「電車の本数が少なくて大変ですね」「朝は何時に出てきたのですか？」等々。

湯河原町は令和 2 年度をピークに高齢者人口が減少に転じる見込みで、現在高齢化率は約 41%です。世間を騒がせている 2025 年問題が早々と訪れています。訪問の時に外に出ても若い子にはほとんど会わず、シルバーカーを押した高齢者のなんと多いことか…。海と山に囲まれた湯河原町にぜひ立ち寄っていただきたいと思います。

私は基礎資格が看護師です。看護師は「生活を科学で実践・研究」と教わっています。「助言」は「指導」という言葉になってしまいます。1 年前より猛威を振るっている新型コロナウイルス感染症の第一線では働けませんが、生活の中での予防や対応については、誰よりも力を発揮しなければならないなあと思っています。そうはいっても看護師の経験年数よりケアマネの経験年数のほうが多くなり日々研鑽の毎日です。ケア

マネジメントの奥深さを痛感し、理解できる頃には私が要介護状態ではないかと心配です。

こんな私を支えているのは事務所にいるミニチュアダックス 3 匹と「ケアネット OHMY」です。小田原市・箱根町・真鶴町・湯河原町のケアマネジャー連絡会ですが、

つながりの強さは日本一だと思います。強キャラ揃いのメンバーに揉まれて揉まれて、どんなケースもあきらめないケアマネが出来上がります（笑）。同僚に恵まれ、地域のケアマネに恵まれた私はこの地域のケアマネで幸せ～と毎日思っています。

今回は、あかつき居宅介護支援センター 岡本 淳子さんです。



歴史こぼれ話 ～十一～

風林火山の旗をひるがえし、戦国時代最強と言われる騎馬軍団を率いた武田信玄ですが、信玄にも苦手なものがあったそうです。平戸藩 9 代藩主松浦静山（まつら せいざん）によって書かれた随筆集『甲子夜話』（かっしやわ）に以下の挿話があります。

武田信玄は芋虫が嫌いであった。ある時、家臣の馬場信房（ばば のぶふさ）が忠誠心から苦手を克服させようと三方に芋虫を乗せて来て、勇気を持って手に取って下さい、と信玄に迫った。信玄は不躰である、と言って

芋虫を握ったところ、恐怖のあまり手の色が変わってしまったそうだ。

『甲子夜話』は信玄が生きた戦国時代より後年の江戸時代後期に書かれたものなので、この挿話の信憑性は低いと思われます。それはさておき「甲斐の虎」と恐れられた信玄は芋虫が苦手だったということは、興味深く、面白い挿話だと思います。

（騒人）



編集後記



この記事をご覧いただく頃には、徐々に暖かさが感じられ、桜の開花も近づいている頃かなと思います。本当に去年は新型コロナウィルス一色となりました。2月頃から騒がれるようになり、次第に緊急事態宣言等によって、外出の禁止やイベント等が軒並み中止となりました。その為、お花見や海水浴等、一年を通じて季節を感じる機会も減ってしまったことで、なんだか時間が止まってしまったような感覚に陥りました。一方で、気が付くとマスクを買い求めていたころからもう一年が経ち、季節の移り変わりを感じる間もなく、ただただ時間の経過だけが早く感じられたようにも思います。そんな不思議な感覚の今年度も、春の訪れとともにもうすぐで終わりを迎えようとしています。

突如として強いられた新しい日常の中、私たちはそれでも前に進まなければいけません。その為に、これまでの価値観を変え、現状を受け入れながら、どのように歩いていくかを考え、そして実践してきました。そんな中、これまでの価値観における様々な「無駄」も見えてきたように思います。これらの「無駄」と向き合うことで、安全な日常を取り戻した時には、ウィルス問題以外においても、もっと過ごしやすい生活を迎えられるかもしれません。私たちはこれだけのリスクを負ったのですから、きっとそれ以上のプラスが得られるはずです。そんな明るい気持ちで、皆様と共に、無事に新年度を迎えられたらと思います。もうひと踏ん張り、共に頑張りましょう。
(な)

Information

会員の皆様へ!!

会員資格は、年度ごとの自動更新になります。退会のご意向がある会員におかれましては、3月31日までに退会届のご提出をお願い致します。ご提出がない場合、次年度の会費請求の対象となります。また、今年度の会費を未納されている方は、今年度会費ご入金の上で退会となります。

なお、次年度の年会費請求書の送付は4月下旬を予定しております。ご自宅住所やご所属が変更になった場合は、変更届のご提出をお願いいたします。退会届、変更届は本会 HP よりダウンロードできます。ご記入の上、FAX もしくは郵送でご提出ください。

メールアドレス登録のお願い

研修会の案内等の情報提供をホームページ、メール等でご案内しています。

メール登録がお済みでない方は、メールにて、件名「会員メールアドレスの登録」とし、会員番号、お名前をご記入の上、協会アドレス（jimu@care-manager.or.jp）までお送りください。メールが届かない方も再度のご申請をお願い致します。



Contact

一般社団法人神奈川県介護支援専門員協会 事務局

〒231-0023 横浜市中区山下町 23 番地 日土地山下町ビル 9 階

TEL 045-671-0284 FAX 045-671-0287

E-mail jimu@caremanager.or.jp H P <http://www.care-manager.or.jp/>

◎編集 / 発行

一般社団法人 神奈川県介護支援専門員協会

広報・出版委員長 石橋 正道



Facebook
はこちら↑



ホームページ
ユーザーはこちら↑